

1、評価結果概要表

作成日 平成19年8月16日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401848
法人名	おおいし有限公司
事業所名	グループホームおおいし
所在地	854-0302 長崎県雲仙市愛野町乙1161-2 (電話) 0957-36-3244

評価機関名	特定非営利活動法人ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年7月30日	評価確定日	平成19年8月22日

【情報提供票より】 (H19年7月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	7 人 非常勤 4 人 常勤換算 5.2 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての 階 ~ 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	3,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 350 円
	夕食	350 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(7 月 30日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 85 歳	最低	78 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	松本医院 畑中歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】


平成16年4月から4年目を迎えた当ホームは、試行錯誤しながらも工夫や勉強を重ねながら運営者と職員が一丸となって利用者を支えている。ホームの周囲には畑が広がり、自然に囲まれた静かな場所に立地し、開設前から近隣住民の方からの協力や馴染みの付き合いを築き、地域との共存・共栄ができています。運営者は利用者との馴染みの関係性を重視し、信頼できる職員が継続して介護に従事できるよう、ケアの統一や利用者との信頼関係の確立を図っている。職員は相手を想い、家族のような関わりの中でケアに取り組みたいという気持ちから、「想」という言葉を理念に掲げ、日々意欲的に学び、利用者と共に喜び、楽しみ、きめ細かな温かみのあるケアを実践されている。また、ご家族や職員も一緒に旅行やドライブに行ったりと積極的な外出の支援をされており、利用者と職員が共に楽しみながら生活されているのが窺えるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 居室環境づくりにおいて、ホーム側からの積極的な声掛けと説明を行い、個人差はあるが、一人ひとりの馴染みのものが持ち込まれている。申し送りノートには確認時のサインを徹底し、伝達漏れのないよう留意されている。また、職員が資格取得することに力を入れられており、資格取得のための研修・通信教育の受講等に積極的に事業所が支援し、スキルアップの体制が出来ている。改善課題についての改善計画作成がなされていない為、どの項目にどれくらいの期間で改善に向けての取り組みをしたかの経緯を記入し保管される事を期待したい。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価について、職員全員で取り組み、改善に向けて実施されている。また、サービス評価の意義を確認し、向上の為に検討や工夫をしていきたいと前向きな姿勢が窺える。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議設置要項・年間行事計画実施報告・外部評価・入居者の状態等について会議を行い、面会の少ないご家族にも積極的に声掛けしている。地域の老人会との交流も検討している。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 面会時に説明・報告をしたり、運営者が電話で報告をし、ホーム便りに代わる、入居者一人ひとりの状態や気付きを書いた手紙をそれぞれの家族へ送付し、暮らしぶりを伝えている。面会時や電話報告時、運営推進会議等で意見を聴取し、職員で話し合い、日々のケアに反映している。今後は、意見箱や定期的アンケート実施など、より一層家族等からの意見を汲み取っていく環境づくりに期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域の文化祭には利用者の作品を出展したり、保育園との交流・職場体験実習などの受け入れも積極的に行っている。また、地域住民の方々と利用者も顔なじみの関係であり、声掛けや協力を得ている。

特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構

2、評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族の一員としての対応を心がけ、地域と共栄・共存していけるよう、利用者本位の理念を作り上げている。		地域への積極的な声掛けやお誘い等を行い、密接な近所付き合いが出来ている。これからは地域密着型サービス事業者として理念の中にも「地域性」を意識しながら、職員、利用者、地域の方々と共有していくことを期待したい。
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月10日に会議を行って意見を交換し合い、職員の思いを反映した理念を基に、ケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭には利用者の作品を出展したり、保育園との交流・職場体験実習などの受け入れも積極的に行っている。また、地域住民の方々と利用者も顔なじみの関係であり、声掛けや協力をしていただいている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員全員で行い、改善に向けて実践されている。但し、改善計画書の作成が無く、改善への取り組みが把握しづらい。		前回の評価結果について、取り組める内容は積極的に取り組み、検討して、改善されている。今後は改善計画シートを作成し、どのくらいの期間で、どのような取り組みをしたか、結果はどうであったかなど具体的に記入し、職員と共有していくことが望ましい。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年に3回、利用者全家族・老人会・町内会長・広報介護課職員・ホーム職員出席の運営推進会議を開催し、意見を貰っている。		

グループホーム おおいし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	福祉事務所に訪問し、利用者の状態やケアの取り組みについて相談するなどして、質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に説明・報告をしたり、代表者が電話での報告をしている。また、ホーム便りに代わる、入居者一人ひとりの状態や気付きを書いた手紙を、それぞれの家族へ送付し、暮らしぶりを伝えている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や、電話報告時・運営推進会議等で意見を聞き、職員で話し合い、ケアに取り組んでいる。		声掛けを積極的に行い、頂いた意見を真摯に受け止め、より良いホーム作りを努力する所存であることから、以前設置されていた意見箱を再度設け、定期的にアンケートを実施するなど家族にとって意見を伝えやすい環境づくりに配慮されるよう期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者・ご家族との信頼関係を重視し、顔なじみの職員の対応を出来る限り継続されている。やむを得ず、離職・移動がある場合は、利用者には十分な説明を行い、状態の安定化を図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	通信教育受講料を事業所で負担するなど、職員のスキルアップの為に研修や資格取得に力を入れている。また、研修内容について、レポートを作成し、他の職員への周知・報告体制を整えている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの相互研修や見学などを行い、職員同士で意見や情報の交換を行っている。また、グループホーム協議会やケア研究会等へ出席されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>デイサービスやご家族からの情報提供を基に検討し、利用者同士の相性や男女のバランスも踏まえ、利用者が孤立しないよう配慮されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>一人ひとりの人格を尊重し、趣味や特技等の特徴を踏まえた個別のケアを行っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者の意思伝達が出来ており、折り込みチラシを見ての買い物選び・電話をかける・手紙を出すなど、職員は希望や意向を把握し、利用者本位の暮らしを支援されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>一ヶ月に一回全職員での会議の際に話し合い、意見交換を行い、それぞれの気づきをプランに反映させている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>状態の変化や状況に応じて、その都度カンファレンスを開き、プランの見直しを実施している。</p>		

グループホーム おおいし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者やご家族が希望されている事・状況に応じた支援を積極的に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム利用前からのかかりつけ医に健康管理や観察をお願いしている。またホーム連携の医療機関との適切な協力体制もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	病状の変化等に伴う緊急時の対応については、医療機関と連携している。現在、終末期に対する希望や意向がないため、終末期の方針を明確化するまでには至っていない。		現在希望はないが、希望があれば見取りへの対応も可能とのことなので、医療機関や家族、職員体制等を考慮しながら終末期に対する方針を明確にしておくことが望ましい。(まず、看取りについての考え方を職員全員で再度考え、家族とも考え方を共有することからはじめてみてはいかがでしょう。)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	他の入居者に気付かれないよう、さりげない声掛けと対応を行っている。また、入浴の際には他の利用者から見えないよう羞恥心に配慮し、支援している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の人数が多い為、入居者一人ひとりの希望や意向を掌握しやすく、わけへだてないケアを提供されている。		

グループホーム おおいし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士により作成された献立で、カロリー制限食や刻み食にも対応されている。食事介助の必要な入居者が少ないので、さりげないサポートと見守りの中で、日勤の全職員と入居者が楽しみながら食事をされている。また、配膳や後片付けなどの手伝いも、できる範囲で利用者がされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日の入浴準備をされており、交代で利用者ごとに週に3回支援されている。希望される入居者には毎日の入浴も支援されている。また、入浴の際の羞恥心に配慮し、見守り介助が気付かれないよう、入居者からは見えない場所で異変を察知できるよう配慮されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	地域の文化祭への入居者作品展や、日常生活の中で、レース編み、地域の習字の先生を招いての書道・観葉植物のお世話等、それぞれの入居者の楽しみごとを支援されている。また、ホーム内のモップがけ・洗濯物たたみ・食事準備や片付け等の役割分担もされ、出番作りに配慮されている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩・ドライブ等、日常的に外出の機会を積極的に作っている。また、1年に1回入居者・全職員・家族参加で1泊旅行への声掛けを行い、職員の慰安や家族との親睦を深める意味合いでも良い機会作りとの実感をされている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠せず、全入居者を目配りのできる位置で見守りをされ、玄関前の鈴で外出を察知できるように工夫されている。帰宅願望のある方は、その都度家族に伺い、対応されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の消防訓練を行い、緊急時の対応に備えている。消防側の案で、居室前のネームプレートに折鶴を飾り、緊急時の避難確認時に取る案を取り入れている。		消防の指示やアドバイスを取り入れながら、ホーム独自の工夫をしていくとのことである。今後は更に時間帯やあらゆる場面(夜間帯・地震・火災・水害等)での対応を想定した緊急・災害訓練を繰り返し実施し、緊急時に備えられることを期待したい。

グループホーム おおいし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はチェック表に記入し、それぞれの状態を把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く、明り取りのある造りで、外気との過剰な温度差もなく、部屋の明るさやテレビの音量も自然である。ホーム内の装飾は地域の人の手作りのキルティングや、季節感のあるものを取り入れて、家庭的な空間作りを工夫されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人差はあるが、机・お茶セット・テレビ・趣味の道具等、思い思いのものを持ち込まれ、快適な暮らしの環境づくりを支援されている。持ち込みの少ない利用者には、ご家族に積極的に声掛けを行っている。		